

ケルン大学・筑波大学交流記念コロキウム  
交換留学促進・改善のためのアカデミック日本語教育の課題  
—アーティキュレーションの可能性—

10:15 コロキウム開会（挨拶、趣旨説明）

10:30 発表1 「つくば日本語テスト集（TTBJ：Tsukuba Test Battery of Japanese）の取り組み紹介」 酒井たか子

TTBJ は、筑波大学留学生センターで作成し改良を重ねてきたさまざまなテストをオンライン化し 2013 年より公開している。採点結果も自動的に処理し、受験者が直後に確認できるようになった。TTBJ には、受験者自身が利用申し込みをして受験する個人受験と、機関の指導者が利用申請をして複数の受験者の受験 ID を得た後に、試験監督のもとで受験する団体受験の 2 種類の受験方法がある。テストは主にプレースメントテストや研究者が習得研究の際の能力別グループ分けに利用されている。

テスト集には、文法などの知識を測るテストのほか、運用力を測るものとして、筑波大学で開発した SPOT(Simple Performance-Oriented Test)などがある。本発表では、SPOT の開発経緯を中心に TTBJ に含まれるテストの紹介と、TTBJ の利用の仕方について述べる。

【お勧め】

事前に次のサイトを参照のうえ、個人受験から SPOT90 の試行をお願いしたい。

<http://ttbj.jp/>

11:00 発表2 「New Silent Way の提案：学習者中心の初級教材と教室活動」 今井新悟

インターネットの急速な普及により、教室で教師が日本語の知識や日本文化情報を伝えるという教育スタイルは価値を失いつつある。学習者が必要とする情報はインターネット上に溢れ、無料の日本語のレッスンも多々あり、教室にはいない母語話者との会話もインターネットで可能である。では、学習者がわざわざ日本語の教室に通う価値はどこにあるのだろうか。日本語教育に限らず、学習の目的は知識の獲得から課題遂行能力向上へと変化しており、そのために必要となるのが自律学習スタイルである。教師には学習者の自律を助ける役割が求められている。その具体的な方法として、新しい教授法 New Silent Way（仮称）を紹介する。教授法は提案されては否定される歴史を繰り返してきた。今回紹介する教授法も例外ではないだろうが、参加者とこの教授法の是非について活発な議論をしたいと思う。その議論から、教師の将来について一緒に考えたい。

13:30 発表3 「ドイツの日本語教育：中等教育と大学のアーティキュレーション」 Monika Unkel

アーティキュレーションという課題は今現在特にドイツの大学と日本の留学先の一貫性に影響があると思われるが、今後、教職課程の卒業生が高等学校に就くことによって、高等学校の日本語授業が今より幅広く提供されるようになり、中等教育・大学のアーティキュレーションもより重要な課題となる。本発表では、ドイツの事情を紹介する上で、これから下のレベルで既に得た知識・能力を無駄にせず、それをもとに学習を続けさせるようにどんな方策を取り入れればいいのか検討する。

13:50 発表4 「中等教育と高等教育のカリキュラムの接続」

田村直子

本発表は、ドイツの日本語教育における中等教育と高等教育の接続が不満足な状態にあることを踏まえ、アメリカにおける Advanced Placement Program (AP) を参考に、ドイツでも実行可能な共通試験の可能性を模索する。AP とはアメリカの高校で大学レベルの授業を提供するプログラムである。語学の授業はもとより、人文科学系、社会科学系、自然科学系、芸術分野などから 37 科目から提供されるもので、AP プログラム自体はアメリカでの中等教育全体を対象としており、直接には参考にできない。しかし、具体的な AP 日本語コースの内容や AP コースの修了試験のあり方は貴重な示唆で、特に AP 修了試験は成績によっては直接大学の授業単位として振り替え可能なもので、着目に値する。ドイツの日本語教育においては、AP 修了試験のような、日本語力を公平に測定できる全ドイツ的な仕組みの確立が急務であろう。その際に J-CAT など既存のリソースの利用も積極的に考えるべきであろう。

14:45 発表5 「ドイツの大学と日本の大学のアーティキュレーション  
—— 大学生の経験から」

Anastasia Bender

本発表は交換留学生としての経験に基づく私論である。ボン大学と筑波大学の日本語の授業を簡潔に比較し、特に筑波大学の日本語の授業について、最後にプレースメントテストにする個人的な考えを述べる。

15:00 発表6 「短期留学生のアンケート調査から見えること」

小野正樹・福士ジャケリネ・呉佩珣

本発表では、短期留学生を対象とした筑波大学留学生センターの初級から上級レベルまでの日本語授業の体系、および、文法・技能別シラバス以外の日本語授業の試みについて紹介を行う。また、短期留学生による、留学前に日本で学びたいと思っていたことと現実についてのアンケート結果にも触れる。

15:30 発表7 「ドイツの大学と日本の留学先の大学の日本語教育のアー  
ティキュレーション」

白石文子

ボロニャ宣言によるバチェラー・マスター課程に伴って、アーティキュレーションというテーマはドイツの大学にとっても肝心の課題となっている。特に高いレベルの習得目標を達成するに留学が不可欠だと思われる日本学や教職課程の日本語にはドイツの大学と留学先の日本の大学の連続性や連携性が必要である。この発表では、いくつかの大学の例を紹介し、今現在の事情を報告する。

16:30 全体のまとめ

16:45 終了